ノビタキ

Saxicola torquata

ツグミ科・夏鳥

ノビタキ（オス）

名前の由来

野のヒタキの意。「ヒタキ」はヒタキの仲間のジョウビタキの地鳴きが「ヒッヒッ、カッカッ」と火打石をたたく音に似ているので「火焼き（ヒタキ）」になったといわれる。多くのヒタキ類は「カッカッ」という声を出す。漢字名：野鶲

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）13cm、両翼を開いたときの長さ21cm。スズメより小さい。

オス（夏羽）は頭から顔、のど、背、翼、尾にかけて黒い。胸から腹にかけて白く、胸のオレンジ色が映える。

腰も白く、低空を飛ぶとき黒と白のコントラストが目立つ。

メスの上面は黄褐色に黒い縦線、と地味。下面は淡く黄色いオレンジ色。

声：繁殖期には草の上、低木などにとまって「ヒーチョロリ、チーロー」「チチョーチィ、チュウチューイ」などと澄んだ声でさえずる。

地鳴き（さえずりではない普段の鳴き方）では「ヒッ、ヒッ」「ジャッ、ジャッ」といった声で鳴く。

飛び方：草丈程度の低いところを飛ぶことが多い。

ノビタキのオス。黒白の体、胸にオレンジ色

ノビタキの幼鳥

ノビタキのメス

生息環境・分布

海岸から高山帯までの広い範囲の草原にすむ。北海道では平地の草原に多い。十勝では夏鳥。

分布：ユーラシア大陸の中･低緯度地方とアフリカ大陸に分布。ユーラシアのものは冬はアフリカ大陸東部、アラビア半島、インド、東南アジアなどに渡る。

日本では本州中部以北で夏鳥、西南日本では渡り鳥として通過する。

北海道には夏鳥として４月上旬に渡来し、草原や農耕地に普通に生息し、繁殖する。

十勝には、４月中旬に渡来。河川敷や農耕地周辺などに普通に生息し、繁殖する。

生活サイクル

	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
十勝出現期						繁　殖						
東南アジアなど（越冬期）												

食性・他生物との関わり

空中や地上の昆虫を捕える。
草原の中で突出している潅木の枝やススキの枯茎の上など、目立つところにとまり、そこから飛んでいる虫や地上の虫に飛びついて捕らえる。虫から少し離れた位置から空間を隔てて一気に近寄り、不意打ちのような形で捕らえる。
捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は５～８月、一夫一妻で繁殖する。
オスは渡来した頃に、灌木の上や空中に飛び上がってさえずり、なわばり性が強い。メスに対し求愛ディスプレー（誇示のための行動・動作）を行ってつがいとなる。(→興味深い話の項参照)
地上の草むらの中の草の根元や石の下、岩陰など隠されたところに巣を作る。たいていは土くれ、石、草などのひさしがあるという。巣はお椀型で、外装は草の茎や枯れ葉、根などで作られ、内装は細い茎や根、植物の綿毛、獣毛、羽毛などで作られるという。巣作りはメスのみが行い、オスはそのメスについて回って「メイトガード」を行うのだという。
３～７個産卵し、メスのみが卵を抱く。約14日でヒナはふ化し、両親の給餌を12～14日間受けて巣立つ。
ふ化後１週間ほどメスのみがヒナを抱くという。

巣立ちビナに空中給餌するノビタキのオス

興味深い話

■草原の中で突出している潅木の枝などにとまり、そこから飛んでいる虫や地上の虫に飛びついて捕らえる。電線や牧柵などにとまっているのを見ることも多い。
■草原では最も目立つ鳥である。
■なわばりの面積は、10,000～26,000㎡程だという。
■さえずり地域はなわばりの中にあり、なわばりの境界には中立地帯があるという。中立地帯ではオス同士が背を向けあって１～10mの間隔でとまり、尾羽を開閉したり、上下にゆすったりする脅しのディスプレー（誇示のための行動・動作）を行うという。
■オスの求愛ディスプレーはメスの前の地上で行われる。空中にはね上がっては降りる、ということを繰り返し、翼を半開きにして白斑を見せながら飛び上がった頂点で逆立ちをするのだという。
■巣作りはまだあまり草が茂っていない早い季節におこなわれ、同じ草原性のホオジロ類より繁殖を早く始めるという。
■オスの体色は冬から夏にかけて、褐色から黒く変化するが、これは羽毛が抜け代わるのではなく、羽毛の先端の褐色部分がすり減るためである。
■比較的低いところを飛ぶためか、農耕地を通る道では車にはねられることが多いようだ。
■渡りの時期には単独か小さな群で現れるという。

電線にもよくとまっているノビタキ（メス）

配慮事項

草丈のある草原が大事。繁殖期に草刈されてしまうと繁殖できない。

参考文献

「山渓カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と渓谷社 1985（1995 ２版21刷）
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂２版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000
「野鳥ブックス－２ フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982（1994 増補版７刷）
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部･釧路支部、1987
「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995
「野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1975

中村登流（1963）蕃殖期における山地草原性鳥類の群集構造について．山階鳥研報、３：334-357.